

看護職者の教育・支援プロジェクト

1. 発足の背景と目的

看護の基盤は人間理解および人へのアプローチと援助にある。こうした看護能力は、看護基礎教育はもちろんのこと、看護職者の生涯を通して継続教育という形で開発し高めていくものである。看護職者の教育・支援プロジェクトでは、学生への基礎教育と人間としての成長、臨地で働く看護職者への自己啓発や、カウンセリングに基づく看護能力の向上と看護職者へのエンパワーメントを目的としている。このような一人ひとりの看護職者の看護能力と資質の向上が、より質の高い看護の提供、および看護の変革に寄与すると考えている。また看護師へのエンパワーメントを目的とした支援プログラムを開発し、その評価、検証を行うことも目的としている。

さらに看護職者は、日々の業務の中で倫理的な問題に悩んだり、ストレスを抱えたりしていることが多い。そのような人々をカウンセリング等によって支援することも目的としている。

2. メンバーの推移

2003年度まで 池田紀子、奥野茂代、竹内幸江、唐澤由美子、岩崎朗子

2004年度 池田紀子、奥野茂代、竹内幸江、唐澤由美子、原田慶子、岩崎朗子

2005年度 原田慶子、奥野茂代、竹内幸江、唐澤由美子、岩崎朗子

2006年度 原田慶子、奥野茂代、竹内幸江、唐澤由美子、岩崎朗子、本田智子、
吉田聡子

3. 活動内容

長野県看護大学主催の「看護に活かすカウンセリングワークショップ」はその代表的なものの一つで、毎年6～7月に2泊3日の2回を1クールとして、県内の臨床看護師や臨地教育者を対象に、看護職者の人間理解、対人援助、コミュニケーションスキルの向上のためのプログラムを実施している。これは体験学習を中心とした参加型のワークショップで、上記のねらいだけでなく、自分の看護実践のふり返し、より質の高い看護を考えること、同時に仲間との交流を通して自分をエンパワーすることを可能にしている。さらに、この研修を修了した人たちのフォローアップ研修も行っている。

具体的な内容は下記のとおりである。

- 1) 学生へのカウンセリングに基づいた授業や宿泊研修、勉強会の実施
- 2) カウンセリングに基づいた看護職者の人間理解、援助、コミュニケーション能力向上のための教育・支援プログラム（ワークショップ）の開発、実施、検討
- 3) 看護師の臨床的、倫理的看護教育プログラムの開発、実施、検討
- 4) 臨床看護師との共同研究
- 5) 看護師へのグループアプローチ理解と実施のためのワークショップの実施、検討
- 6) 長野県看護大学実習病院看護師との連携と協力関係の確立の実践
- 7) 長野県看護協会の研修、県内病院研修の講師

4. 活動成果

「看護に活かすカウンセリングワークショップ」に参加した看護職者は、発足当時から数えて、約 130 名になっており、看護職者の人間理解、対人援助、コミュニケーションスキルの向上、自分の看護実践のふり返し、より質の高い看護を考えること、同時に仲間との交流を通して自分をエンパワーすることを可能にしている。

5. 研究成果

《論文》

- 1) 池田紀子, 岩崎朗子, 原田慶子, 清水久美子 (2002): 継続教育「カウンセリング研修」の効果－臨床での活用とその結果の検討－, 第 33 回日本看護学会論文集 (看護教育), 42-44.
- 2) 池田紀子, 岩崎朗子 (2004): 臨床看護スーパービジョンの意義, 看護管理, 14 (6) 463-469.
- 3) 岩崎朗子, 池田紀子 (2004): 臨床グループスーパービジョンの効果 個人インタビューの分析から. 看護管理, 14 (6) 469-472.
- 4) 原田慶子, 岩崎朗子 (2005): 看護学生の自己理解に関する研究－自分について気づいた内容から－. 第 36 回日本看護学会論文集－看護教育－: 203-205.
- 5) 原田慶子, 唐澤由美子, 岩崎朗子, 北山秋雄, 野坂俊弥, 本田智子, 平松理恵, 墨矢勇夫 (2005): 「人を育てる看護教育」の実現をめざして, 看護教育, 46 (10): 842-847.
- 6) 岩崎朗子, 原田慶子, 吉田聡子, 大脇百合子 (2006): エンカウンター・グループが看護学生のコミュニケーションの認識に与える影響. 長野県看護大学紀要, 第 8 巻: 61-69.

- 7) 折井こずえ, 佐久間貴美江, 藤澤淑子, 原田慶子 (2006): 看護職者のつらさに関する研究～つらさの要因～. 第 36 回日本看護学会論文集－看護管理－, 53－55.

《学会発表》

- 1) 岩崎朗子, 池田紀子: 授業の中のエンカウンターグループの効果, 日本看護学教育学会第 13 回学術集会, 2003. 8. 3, 長野市.
- 2) 雨宮多喜子, 池田紀子, 岩崎朗子: 県内病院にける看護職の離職・転職の実態と看護部長の認識, 第 7 回看護管理学会年次大会講演抄録集, 176－177, 2003. 8. 22－23, 横浜市.
- 3) 岩崎朗子, 池田紀子, 清水久美子: 臨床看護スーパービジョンを受けた看護師の変化－個人インタビューの分析－, 第 34 回日本看護学会抄録集－看護管理－, 2003. 11. 6－7. 津市.
- 4) 池田紀子, 岩崎朗子, 雨宮多喜子: 臨床スーパービジョンと看護師の倫理的意思決定, 日本看護科学学会第 23 回大会, 2003. 12. 6－7, 津市.
- 5) 岩崎朗子, 池田紀子: 看護師の患者理解に対する臨床看護スーパービジョンの影響, 2003. 12. 6－7, 津市.
- 6) 池田紀子, 雨宮多喜子, 岩崎朗子 (代理発表): 仕事の継続に困難を感じている看護職者の健康とストレス. 第 8 回日本看護管理学会年次大会, 2004. 8. 20. 宇都宮市.
- 7) Iwasaki A, Ikeda N: The effect of Clinical Nursing Group Supervision in Japan – The supervisees’ perception for the group. 5th International Nursing Research Conference, 2004. 8. 29. Fukushima.

- 8) 原田慶子, 岩崎朗子: 看護学生の自己理解に関する研究—自分について気づいた内容から—. 第 36 回日本看護学会抄録集—看護教育—, 2005. 8. 4, 宇都宮市.
- 9) 原田慶子, 岩崎朗子: 看護学生の自己理解に影響を与える授業要因. 第 25 回日本看護科学学会学術集会, 2005. 11. 19, 青森市.
- 10) 岩崎朗子, 原田慶子: エンカウンター・グループが看護学生のコミュニケーションの変化に与える影響. 第 25 回 日本看護科学学会学術集会, 2005. 11. 19, 青森市.
- 11) 折井こずえ, 佐久間貴美江, 藤澤淑子, 原田慶子: 看護職者のつらさに関する研究—つらさの要因—. 第 36 回日本看護学会抄録集—看護管理—, 2005. 11. 5, 奈良市.
- 12) 原田慶子, 岩崎朗子, 吉田聡子, 大脇百合子: 卒業期看護学生へのエンカウンター・グループの影響—自己受容の視点から—. 第 37 回日本看護学会抄録集—看護教育—, 2006. 8. 2, 松山市.
- 13) 大脇百合子, 原田慶子: 病院内エンカウンター・グループにおける体験のプロセス, 日本看護学教育学会 第16回学術集会, 2006. 8. 5, 名古屋市.
- 14) 岩崎朗子, 原田慶子: 看護カウンセリング研修による対人関係の振り返り, 日本看護学教育学会 第16回学術集会, 2006. 8. 5, 名古屋市.
- 15) 原田慶子, 岩崎朗子: カウンセリング研修プログラムの効果—自己受容の視点から—, 第 10 回日本看護管理学会年次大会, 2006. 8. 25, 東京都
- 16) 向村いつみ, 清水久美子, 岩崎朗子, 原田慶子: 大動脈解離患者のせん妄時における心理状態の分析—想起内容をインタビューして—, 第 37 回日本看護学会抄録集—成人看護 I—, 2006. 10. 12, 京都市.

17) 原田慶子, 大脇百合子: 看護職者の職場内エンカウンター・グループ体験の影響～自己受容の視点から～, 第 37 回日本看護学会抄録集－看護管理－, 2006. 10. 25, さいたま市.

18) 原田慶子, 岩崎朗子: 学生の自己理解に関する研究～非構成的エンカウンター・グループに参加した学生の反応～, 日本看護科学学会第 26 回学術集会, 2006. 12. 2, 神戸市.

《交流セッション企画・運営》

1) 原田慶子, 池田紀子, 奥野茂代, 岩崎朗子: 看護基礎教育におけるカウンセリング教育 (第 5 回目) ～話を聴くこと～, 日本看護学教育学会 第14回学術集会, 2004. 7. 24, 山形市.

2) 原田慶子, 岩崎朗子, 吉田聡子, 大脇百合子: 看護基礎教育におけるカウンセリング教育 (第 6 回目) ～学生が自分を知ること～. 日本看護学教育学会 第15回学術集会, 2005. 7. 23, 大宮市.

3) 原田慶子, 岩崎朗子, 吉田聡子, 大脇百合子: 看護基礎教育におけるカウンセリング教育 (第 7 回目) ～学生が自分を知るための教育～. 日本看護学教育学会 第16回学術集会, 2006. 8. 6, 名古屋市.

6. 助成金

1) 池田紀子 (研究代表者), 雨宮多喜子, 岩崎朗子: 仕事の継続に困難を感じている看護職者のストレス・健康と離職. 平成 14-17 年度長野県看護大学特別研究費補助金.

平成 16 年度 池田紀子 (研究代表者), 雨宮多喜子, 岩崎朗子, 原田慶子

平成 17 年度 岩崎朗子（研究代表者）、雨宮多喜子、原田慶子

- 2) 原田慶子（研究代表者）、岩崎朗子：学生が自分をわかっていくプロセスに関する研究。平成 16－18 年度長野県看護大学特別研究費補助金。